

■ねらい

- 定員と希望者の2つの数量関係に着目すれば、楽器希望の  
かないやすさが比較できることに気付かせる。
- 定員と希望者を差で比較すること、公倍数を使って定員を  
そろえて比較することを通して、差が同じでも希望のかな  
いやすさは違うこと、片方をそろえれば差でも比べられる  
ことを捉えさせる。

■つまずき解消

- 基準量をしっかり意識させる。
- 基準量と比較量の数量関係を視覚的に捉えさせる。

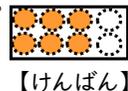
center method

1 段階的な表の提示

- まず表の希望者の列だ  
けを観察し、希望の  
かないやすさを吟味する。
- 比較するためには、定  
員と希望者の2つの数  
量を見比べる必要があ  
ることに気付く。

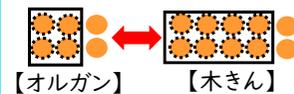
2 〇●図の活用

- 定員を〇、希望者を●  
にして図に表す。
- 定員に対する希望者の  
数量の大小を実感的に  
理解する。



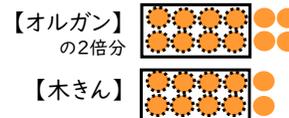
3 差での比較の吟味

差が同じ2人であっても、  
定員がそろっていない場  
合は、希望のかないやす  
さはすぐに比較できない。



4 基準量をそろえる

比例関係を前提に公倍数  
を使って定員をそろえれ  
ば、差で比較できる。



1 楽器決め

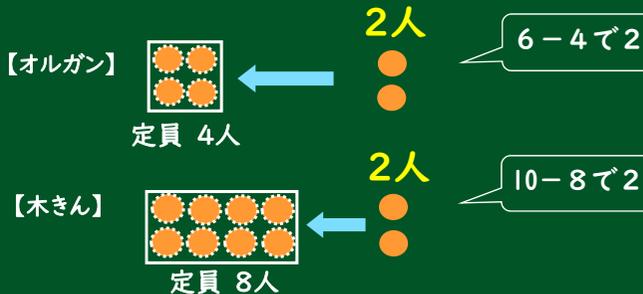
楽器	定員	希望者
打楽器	2	8
オルガン	4	6
けんぱん	8	6
木きん	8	10
リコーダー	20	12

希望者の人数だけでは  
わからない

めあて

定員と希望者の数に注目して、希望のかないやす  
さをくらべる方法を考え説明しよう。

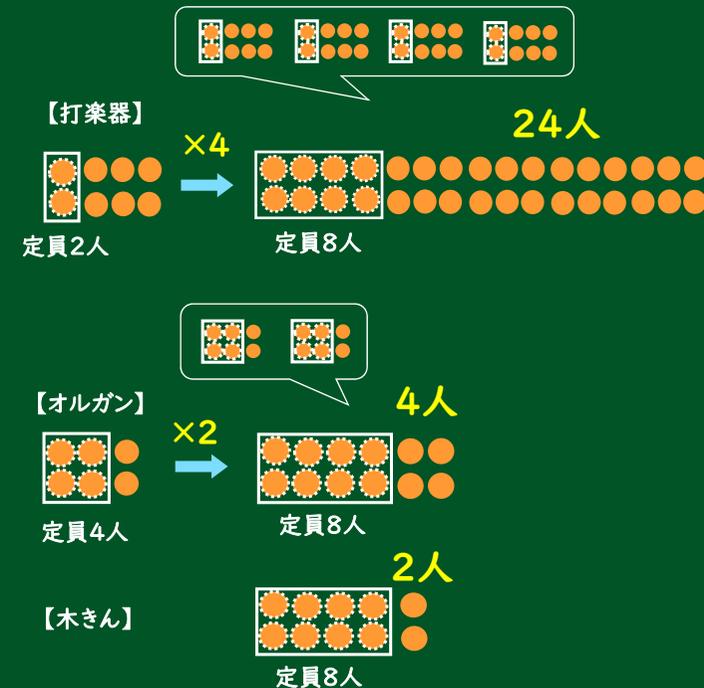
3 希望がかなわない人数に着目してくらべる



希望がかなわ  
ない人数だけ  
ではくらべ  
られない。

定員	1	4	8	10	20
希望者	3	6	10	12	22
希望がかな わない人数	2	2	2	2	2

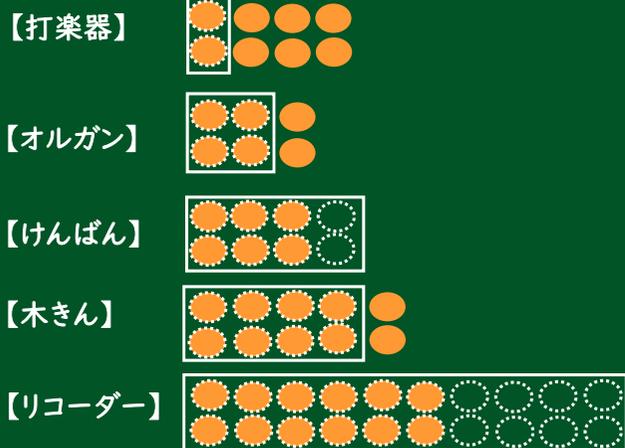
4 公倍数を使って定員をそろえる



まとめ

希望がかなわない人数だけでは、希望がかないやすいかどう  
かはわからない。公倍数の考え方を使って定員をそろえるこ  
とで、希望のかないやすさをくらべることができる。

2 定員 希望者



# 「倍」で比較し、割合の意味を深める

「倍」での比較

基準量を1とする

割合が小数で表される場合があること

## ねらい

- 基準とする定員の大きさを1として、それに対する希望者の数を倍で表すことで、楽器希望の少ないやすさが比較できることに気付かせる。
- 基準量1に対して比較量がどれだけに相当するかを表した数が割合であるという割合の意味を捉えるさせる。
- 割合の求め方を言葉の式で表すと「もとにする量×□（割合）＝比べる量」に表すことを捉えさせる。

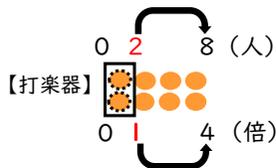
## つまずき解消

- 比較する2量を捉えた後、基準量をしっかり意識させる。
- 基準量と比較量の数量関係を視覚的に捉えさせる。
- 「倍」は数字が大きくなっていくイメージがあるが、1より小さい場合もあることに気付かせ、「割合」の考え方へスムーズに展開させる。

### center method

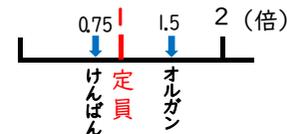
#### 1 〇●図の活用

定員に対する希望者の割合を視覚的に捉える。



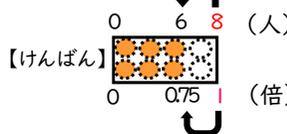
#### 2 定員を1とみる

基準とする定員の大きさを1として、希望者の割合を小数で表す。



#### 3 1より小さい倍の意味

倍を表す小数が1より小さくなる意味を視覚的に捉える。

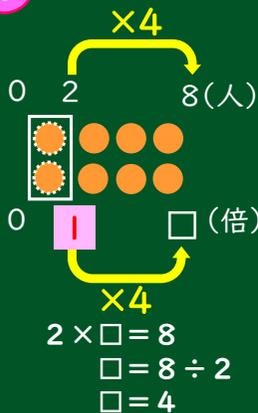


#### 4 割合の求め方

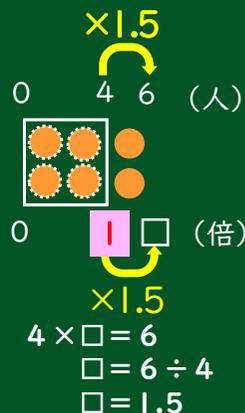
割合の求め方を一般化する際には、定員を基準量、希望者を比較量、倍を割合と置き換えて、帰納的に「もとにする量×割合＝くらべる量」という言葉の式に整理する。

めあて 定員と希望者の数に注目して、倍の考え方で希望の少ないやすさをくらべる方法を考え説明しよう。

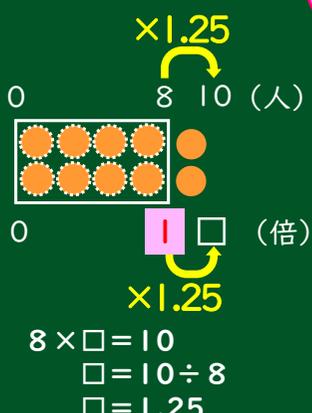
#### 1 【打楽器】



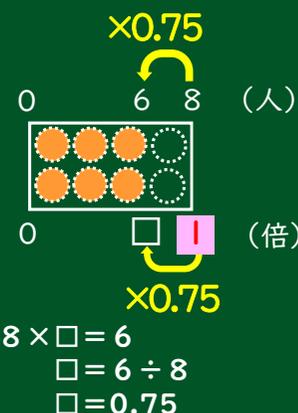
#### 【オルガン】



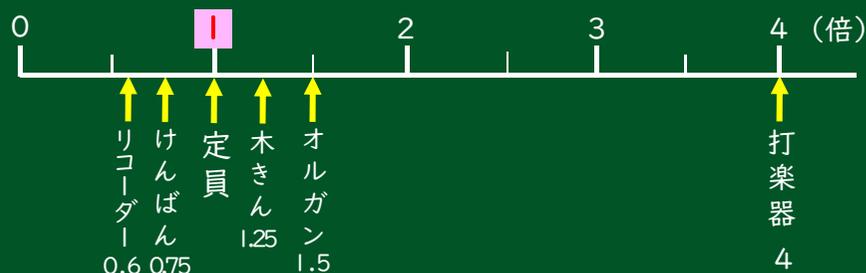
#### 【木きん】



#### 3 【けんぱん】



#### 2 定員を1とみて、その何倍になるかでくらべる



#### 4

楽器	定員	希望者	倍
打楽器	2	8	4
オルガン	4	6	1.5
けんぱん	8	6	0.75
木きん	8	10	1.25
リコーダー	20	12	0.6

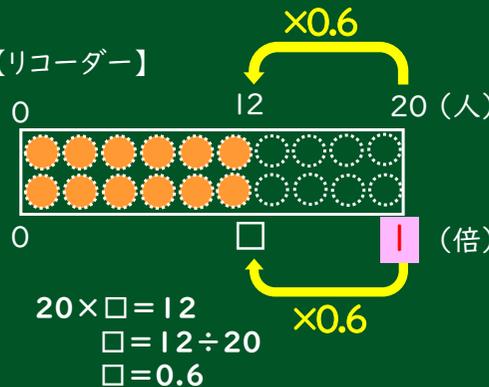
もとにする量    くらべる量    割合

もとにする量 × 割合 = くらべる量

まとめ

二つの量の関係をくらべる場合、くらべる量のもとにする量の何倍に当たるかを表した割合を求めるとくらべるることができる。割合は、もとにする量を「1」としたとき、くらべる量がどれくらいの大きさかを表している。

#### 【リコーダー】



■ねらい

- 全体と部分の関係、部分と部分の關係に着目して、□を使って立式しかけ算の逆算から割合を求めたり、計算過程から「割合＝比べる量÷もとにする量」という言葉の式を考えたりできるようにする。
- 数量関係図で全体と部分の關係から基準量・比較量・割合の關係を捉えたり、割合を求めたりすることができることに気付かせる。

■つまずき解消

- 比較量は基準量×倍を視覚的に理解させ「倍」(＝「割合」)の計算をかけ算で立式させる。
- 全体(基準量)と部分(比較量)の關係から、割合が1より小さい場合が多いことから、計算上は小さい数÷大きい数となることに気付かせる。
- 割合が1より大きくなる場合も考えさせ、比較しながら理解できるようにする。

center method

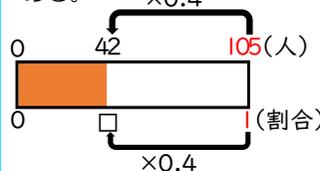
1 全体と部分の把握

全体と部分の關係から基準量・比較量・割合の關係を捉える。



2 数量関係図の活用

数量關係を捉え、割合を求める。



3 □を使った式

割合を□として、かけ算の逆算から、□を求める。

$$105 \times \square = 42$$

$$\square = 42 \div 105$$

$$\square = 0.4$$

答え 0.4

4 言葉の式

獲得したイメージを中心計算すると、言葉の式とも同じになっていることを捉える。

$$\square = 42 \div 105$$

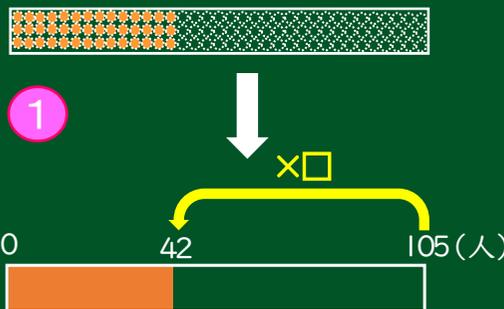
割合 = くらべる量 ÷ もとにする量

問題

5年生105人のうち、学習発表会で楽器をえんそうした人は42人いました。

楽器をえんそうした人数は、5年生全体の人数をもとにしたとき何倍になるでしょう。

5年生全体 105人 ← もとにする量  
楽器の人数 42人 ← くらべる量



$$105 \times \square = 42$$

$$\square = 42 \div 105$$

$$\square = 0.4$$

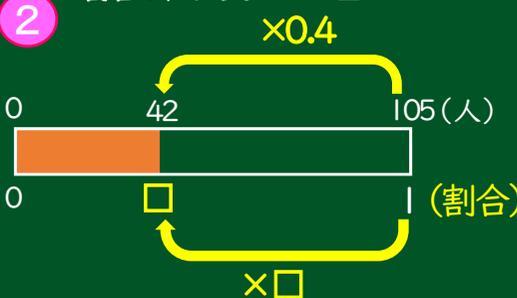
答え 0.4倍

めあて

もとにする量とくらべる量を図に表して、割合を求め方を考えよう。

5年生全体の人数をもとにしたときの割合を求めましょう。

105人 ← もとにする量  
42人 ← くらべる量  
割合はわからない → □



$$105 \times \square = 42$$

もとにする量 × 割合 = くらべる量

$$\square = 42 \div 105$$

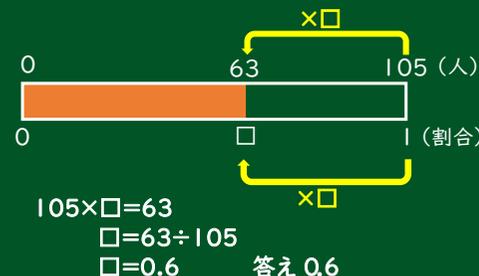
割合 = くらべる量 ÷ もとにする量

$$\square = 0.4$$

答え 0.4

4 言葉の式にすると  
割合 = くらべる量 ÷ もとにする量

歌を歌った人は63人です。5年生全体の人数をもとにしたとき、歌を歌った人数の割合を求めましょう。



$$105 \times \square = 63$$

$$\square = 63 \div 105$$

$$\square = 0.6$$

答え 0.6

楽器をえんそうした人数をもとにしたとき、歌を歌った人数の割合を求めましょう。



$$42 \times \square = 63$$

$$\square = 63 \div 42$$

$$\square = 1.5$$

答え 1.5

まとめ

もとにする量やくらべる量を図に表して整理すると關係がわかり、計算方法も考えやすくなる。

定員	倍	希望者
2	4	8
4	1.5	6
8	0.75	6

定員 の □倍 が 希望者

もとにする量の □倍 が くらべる量  
||  
割合

式で表すと  
もとにする量 × 割合 = くらべる量

■ねらい

- 全体と部分の関係に着目して、□を使ってかけ算の計算で比べる量を求めることができるようにする。
- 数量関係図で全体と部分の関係から、基準量・比較量・割合の関係を捉えたり、数量関係図をもとに比べる量を求めたりすることができることに気付かせる。

■つまずき解消

- 比較量は基準量×倍を視覚的に理解させ「倍」(＝「割合」)の計算をかけ算で立式させる。
- 全体(基準量)と部分(比較量)の関係から、割合が1より小さい場合が多いことから、計算上は小さい数÷大きい数となることに気付かせる。
- 割合が1より大きくなる場合も考えさせ、比較しながら理解できるようにする。

center method

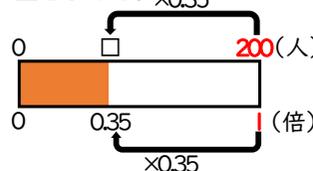
1 全体と部分の把握

全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉える。



2 数量関係図の活用

数量関係を捉え、比べる量を求める。×0.35



3 □を使った式

比べる量を□として、かけ算の計算で□を求める。

$$200 \times 0.35 = \square$$

$$\square = 70$$

答え 70さつ

4 言葉の式

獲得したイメージを中心に計算すると、言葉の式とも同じになっていることを捉える。

$$\square = 200 \times 0.35$$

くらべる量=もとにする量×割合

問題

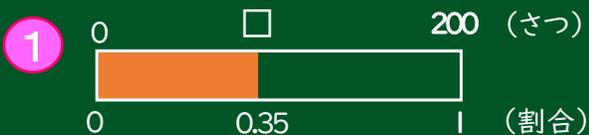
図書委員のあかりさんは、1週間で5年生がどれだけの本を借りたかを調べました。  
先週、借りられた本は全部で200さつで、5年生が借りたのは、その0.35倍でした。  
先週、5年生が借りた本は何さつでしたか。

5年生が借りた本のさつ数

借りられた本200さつ全部 ← もとにする量 |

5年生が借りた本のさつ数 ← くらべる量 □

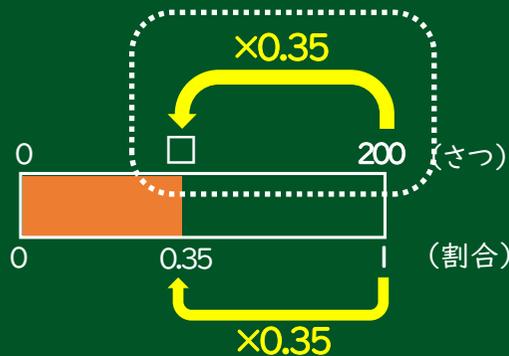
5年生が借りた本のさつ数の割合は0.35



めあて

もとにする量とくらべる量を図に表して、くらべる量を求め方を考えよう。

2



3

200さつ全部の0.35倍が5年生が借りた本□さつ

$$200 \times 0.35 = \square$$

↑      ↑      ↑  
もとにする量   割合   くらべる量

4

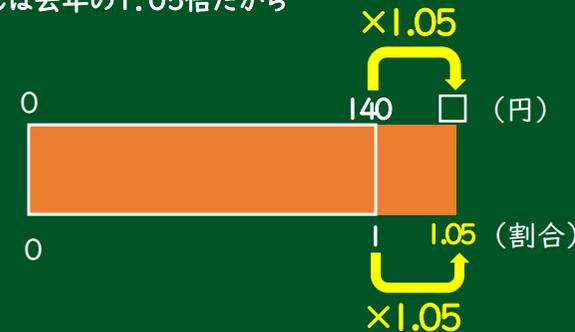
言葉の式にすると

$$\square = 70 \quad \text{答え } 70\text{さつ}$$

$$\text{くらべる量} = \text{もとにする量} \times \text{割合}$$

去年140円だった野菜が、こしは去年の1.05倍にねあがりしたそうです。  
こしは去年のねだんは何円ですか。

去年のねだん140円 ← もとにする量  
今年のねだん□円 ← くらべる量  
こしは去年の1.05倍だから



$$140 \times 1.05 = \square$$

$$\square = 147 \quad \text{答え } 147\text{円}$$

まとめ

もとにする量やくらべる量を図に整理し関係を見ると計算方法がわかる。もとにする量を何にするかを考え、割合をかけるとくらべる量が求められる。

ねらい

- 全体と部分の関係に着目して、□を使ってかけ算の逆算でもとにする量を求めることができるようにする。
- 数量関係図で全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉えたり、数量関係図でもとにする量を求めたりすることができることに気付かせる。

つまずき解消

- 比較量は基準量×倍を視覚的に理解させ「倍」(=「割合」)の計算をかけ算で立式させる。
- 全体(基準量)と部分(比較量)の関係から、割合が1より小さい場合が多いことから、計算上は小さい数÷大きい数となることに気付かせる。
- 割合が1より大きくなる場合も考えさせ、比較しながら理解できるようにする。

center method

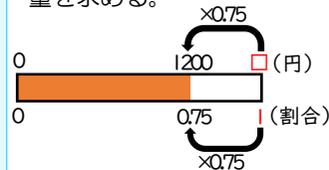
1 全体と部分の把握

全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉える。



2 数量関係図の活用

数量関係を捉え、比べる量を求める。



3 □を使った式

もとにする量を□として、かけ算の逆算で□を求める。

$$\begin{aligned} \square \times 0.75 &= 1200 \\ \square &= 1200 \div 0.75 \\ \square &= 1600 \\ \text{答え } & \underline{1600\text{円}} \end{aligned}$$

4 言葉の式

獲得したイメージを中心に計算すると、言葉の式とも同じになっていることを捉える。

$$\begin{aligned} \square &= 1200 \div 0.75 \\ \text{もとにする量} &= \text{くらべる量} \div \text{割合} \end{aligned}$$

問題

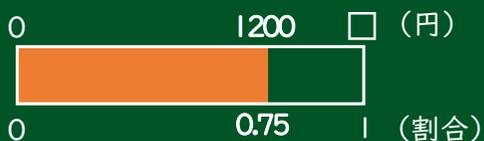
ある品物が、去年の0.75倍にね下がりがりして、こしは1200円で売られています。去年のねだんは何円でしたか。

去年のねだん □円

こしのねだん 1200円

こしは去年の0.75倍

1



めあて

もとにする量やくらべる量を図に表して、もとにする量を求め方を考えよう。

2



3

$$\begin{aligned} \square \times 0.75 &= 1200 \\ \text{もとにする量} \quad \text{割合} \quad \text{くらべる量} \\ \square &= 1200 \div 0.75 \\ \text{もとにする量} \quad \text{くらべる量} \quad \text{割合} \end{aligned}$$

$$\square = 1600 \quad \text{答え } \underline{1600\text{円}}$$

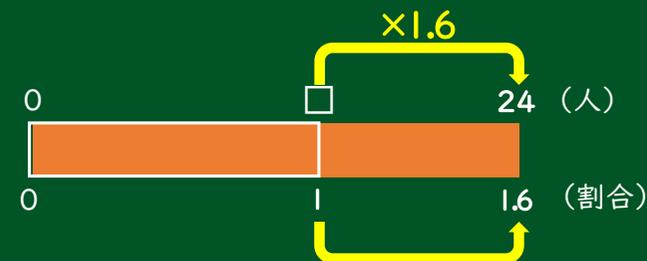
4

言葉の式にすると

$$\text{もとにする量} = \text{くらべる量} \div \text{割合}$$

きょう、図書室を利用した5年生は、きのうの1.6倍にあたる24人でした。きのう、図書室を利用した5年生は何人でしたか。

きょう 24人 ←くらべる量  
きのう 何人かわからない ←もとにする量  
きのうの1.6倍 ←割合  
↑もと



$$\begin{aligned} \square \times 1.6 &= 24 \\ \square &= 24 \div 1.6 \\ \square &= 15 \\ \text{答え } & \underline{15\text{人}} \end{aligned}$$

まとめ

くらべる量がもとにする量の何倍になっているかを考えれば、もとにする量が求められる。

## ねらい

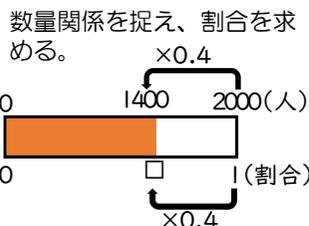
- 基準量を1として小数で表した割合を、基準量を100に変えて整数で表した割合が百分率であることを見いださせる。
- 数量関係図をもとに全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉えたり、数量関係図をもとに百分率を求めたりすることができることに気付かせる。

## つまずき解消

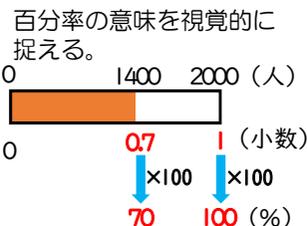
- 視覚的に理解した基準量と比較量の関係から「倍」(=「割合」)の計算へスムーズに展開させる。
- 基準量1の小数で表される割合と、基準量100の百分率で表される割合の相互の関係を捉えさせる。

### center method

#### 1 数量関係図の活用



#### 2 百分率の意味



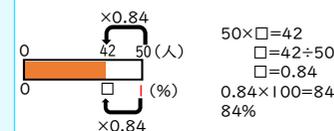
#### 3 基準の大きさを変える

基準量を100とした割合の表し方を捉える。

小数	百分率
1	→ 100%
0.7	→ 70%
0.5	→ 50%
0.1	→ 10%
0.01	→ 1%

#### 4 百分率の求め方

計算は割合(小数)です。計算結果を100倍して百分率を求める。

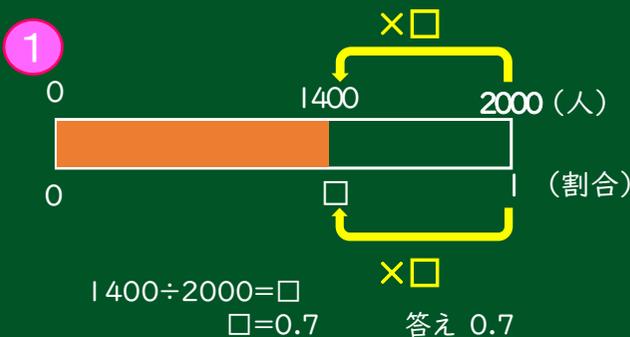


## 問題

ある商店で、大売り出しをしています。そうたさんは、2000円のマフラーを1400円で買いました。もとのねだんをもとにした代金の割合はいくらですか。

### マフラーの代金の割合

2000円 もとのねだん  
1400円 代金  
もとのねだん → もとにする量  
くらべる量 → 代金  
割合が□



安売りで0.7で買った?  
ほかの表し方があるそう

## めあて

図をもとに、割合の表し方について考えよう。

割合    |    0.7    1.6   ← 小数や整数パーセント(%)



小数は もとにする量を1  
百分率はもとにする量を100とした割合の表し方

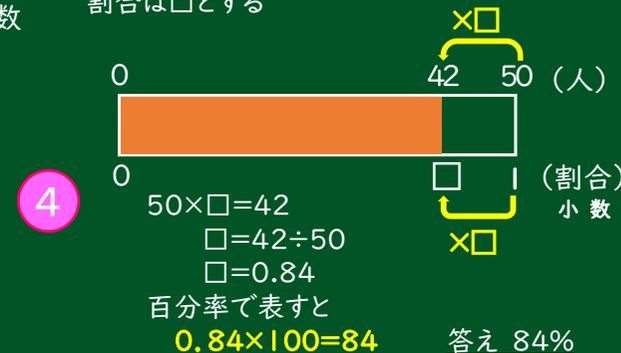
3

割合	小数	百分率
	1	→ 100%
	0.7	→ 70%
	0.5	→ 50%
	0.1	→ 10%
	0.01	→ 1%

定員が50人のバスがあります。いま、バスには42人の乗客がいます。乗客の数は、定員の何%にあたりますか。

% は割合 → 今までどおり計算

定員50人をもとにする量にする  
乗客42人をくらべる量にする  
割合は□とする



今までどおり計算した後  
小数を100倍して%にかえることができる

## まとめ

もとにする量を1としたときに小数で表した割合をもとにする量を100として表す方法が百分率(%)である。割合が百分率で表されている場合は小数にかえて計算する。

# 百分率で表された問題

基準量を100とした割合の表し方

百分率を小数にかえる

数量関係図から式へ

## ねらい

- 百分率を基準量を1とした小数に変えれば、計算して答えを求められることに気付かせる。
- 数量関係図で全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉えたり、数量関係図から計算式を立てて基準量や比較量を求めたりできるようにする。

## つまずき解消

- 視覚的に理解した基準量と比較量の関係から「倍」(=「割合」)の計算へスムーズに展開させる。
- 基準量1の小数で表される割合と、基準量100の百分率で表される割合の相互の関係を捉えさせる。

## center method

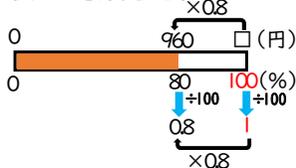
### 1 全体と部分の把握

全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉える。



### 2 数量関係図の活用

百分率を小数に変換し図に表して計算する。



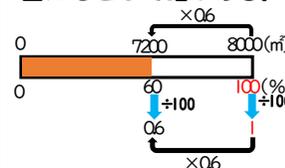
### 3 □を使った式

図をもとに、□を使ってかけ算の逆算で計算する。

$$\begin{aligned} \square \times 0.8 &= 960 \\ \square &= 960 \div 0.8 \\ \square &= 1200 \end{aligned}$$

### 4 答えの確かめ

求めた答えが正しいかを図にもとめて確かめる。



## 問題

あおさんはもとのねだんの80%で手ぶくろを買いました。代金は960円でした。もとのねだんは何円ですか。

手ぶくろのもとのねだん

もとのねだんを もとにする量 とする  
代金960円を くらべる量 とする

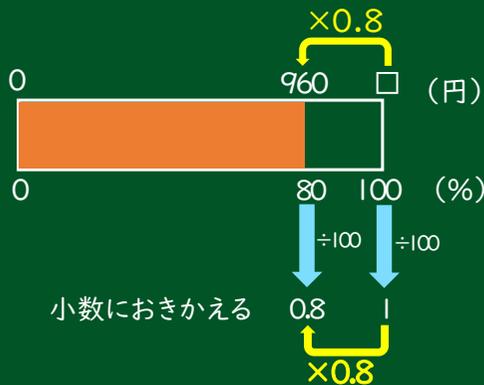
割合(百分率)は80%  
もとのねだんはわからない □円



## めあて

割合が百分率で表された問題について考えよう。

### 2 80%=0.8



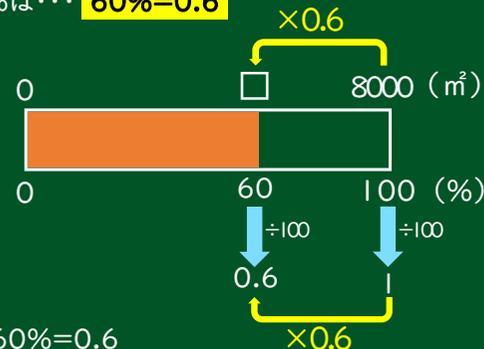
80%=0.8  
 $\square \times 0.8 = 960$   
 $\square = 960 \div 0.8$   
 $\square = 1200$   
 答え 1200円

あきらさんの学校のしき地は8000㎡で、しき地全体の60%が運動場です。運動場の面積は何㎡ですか。

しき地全体 ← 8000㎡  
 運動場 ← □㎡

しき地全体の60%が運動場  
 ↑  
 もとにする量 割合 くらべる量  
 (百分率)

60%は... 60%=0.6



60%=0.6  
 $8000 \times 0.6 = \square$   
 $\square = 7200$   
 答え 7200㎡

## まとめ

百分率で表された割合を小数の割合にかえてから計算するとよい。

## ねらい

- 「10%引き」で比較量を求める問題は、減少する割合が基準量の何倍にあたるかに着目すれば、減少後の比較量の割合がわかり、答えが求められることに気付かせる。
- 数量関係図で全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉えたり、数量関係図から計算式を立てて比較量を求めたりできるようにする。

## つまずき解消

- 視覚的に理解した基準量と比較量の関係から「倍」(=「割合」)の計算へスムーズに展開させる。
- 基準量1の小数で表される割合と、基準量100の百分率で表される割合の相互の関係を捉えさせる。

### center method

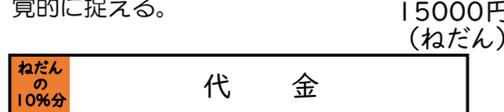
#### 1 全体と部分の把握

全体と部分の関係から基準量を何にするのか決め、数量関係を捉える。



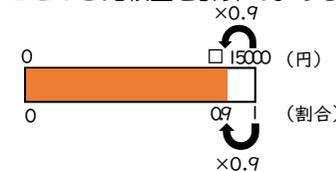
#### 2 「10%引き」とは?

- 値段の「10%引き」の意味を考える。
- 「10%」との違いを話し、「10%引き」は、代金が値段の10%分安くなることを図を基に視覚的に捉える。



#### 3 (1-0.1)倍で計算

代金の割合が(1-0.1)倍になることから比較量を計算で求める。



## 問題

ねだんが15000円のデジタルカメラを10%引きで買います。代金は何円ですか。

めあて ○%引きの代金を求め方を考えよう。

<考え1> **ね引き分**を□円として、何円になるか考える

<考え2>

代金を□円として、ねだんの**何倍**かを考える

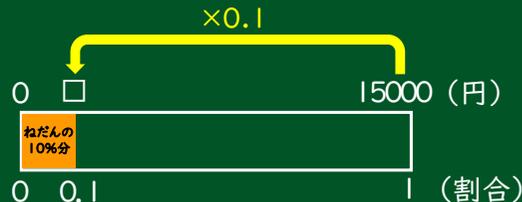
1 **ねだんの10%引きとは?**

**ねだんの10%分** 割合(小数)は0.1



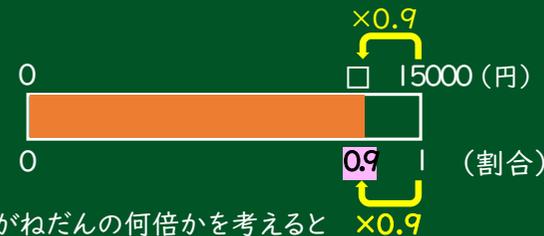
**ねだんの10%引きは、代金がねだんの10%分安くなること**

ねだん 15000円  
10%分はね引き分  
10%は0.1  
代金はもとのねだんからね引き分を引く



ね引き分は、15000円の10%だから  
 $15000 \times 0.1 = \square$   
 $\square = 1500$   
ね引きされたあとの代金は  
 $15000 - 1500 = 13500$  答え 13500円

値引き分は10%  
代金は全体の100%から10%を引いた90%  
小数で考えると $1 - 0.1 = 0.9$



代金がねだんの何倍かを考えると  
 $1 - 0.1 = 0.9$   
ね引きされたあとの代金□円は  
 $15000 \times 0.9 = \square$   
 $\square = 1350$  答え 13500円

<考え3> 一つの式にして  
 $15000 \times (1 - 0.1) = 13500$   
答え 13500円

まとめ もとにする量を1として、何倍にあたるかを考えれば、10%引きのような問題は答えが求められる。

# 「20%増量」で比較量を求める問題

「20%増量」の意味

百分率を小数にかえる

数量関係図から式へ

## ねらい

- 「20%増量」で比較量を求める問題は、増加する割合が基準量の何倍にあたるかに着目すれば、増加後の比較量の割合がわかり、答えが求められることに気付かせる。
- 数量関係図で全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉えたり、数量関係図から計算式を立てて比較量を求めたりできるようにする。

## つまずき解消

- 視覚的に理解した基準量と比較量の関係から「倍」の計算へスムーズに展開させる。
- 基準量1の小数で表される割合と、基準量100の百分率で表される割合の相互の関係を捉えさせる。

## center method

### 1 全体と部分の把握

全体と部分の関係から基準量を何にするのか決め、数量関係を捉える。

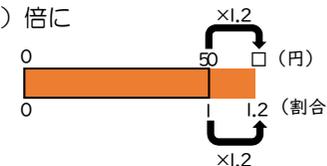


### 2 「20%増量」とは？

- もとの量の「20%増量」の意味を考える。
- 「20%」との違いを話し、  
「20%増量」は、もとの量の20%分多くなることを図を基に視覚的に捉える。

### 3 (1+0.2)倍で計算

求める部分の割合が(1+0.2)倍になることから比較量を計算で求める。「20%増量」の意味を考え、重さが(1+0.2)倍になることを捉える。



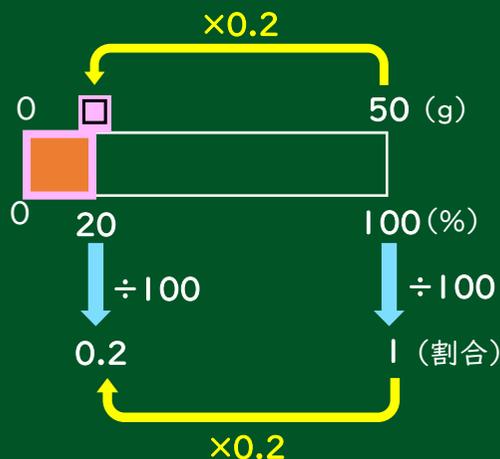
## 問題

これまで1ふくろ50g入りだったおかしが、20%増量して売られています。いま売られているおかしは、1ふくろ何g入りですか。

めあて

○%増量の増量後の重さの求め方を考えよう。

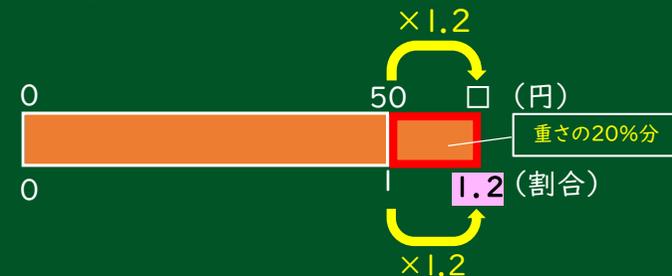
<考え1> はじめに増量分をもとめる



まず増量分を求めます  
20%は0.2  
 $50 \times 0.2 = 10$  10g  
これは10増えたということだから、  
増量後の重さは  
 $50 + 10 = 60$  答え 60g

3

<考え2> 増量後を□gとして、これまでの何倍かを考える



まず増えた後の重さは、はじめ重さの何倍(何%)か考えて20%は0.2  
増量なのでたし算をして  $1 + 0.2 = 1.2$   
増えた後の重さは、はじめの重さの1.2になるから  
 $50 \times 1.2 = 60$  答え 60g

<考え3>

20%増量とは、はじめの重さの20%分重くなるということ。  
はじめのおかしの重さの何倍かを考えると、 $1 + 0.2 = 1.2$   
1つの式にして  $50 \times (1 + 0.2) = 60$  答え 60g

まとめ

もとにする量を1として、増量後が何倍にあたるかを考えて計算するとよい。

### 1 重さが20%増量とは？



### 2 重さは増える 全体の20%?



■ねらい

- 「25%引き」「15%増量」で基準量を求める問題は、増減する割合が比較量の何倍にあたるかに着目すれば、基準量がかかけ算の逆算で求められることに気付かせる。
- 数量関係図で全体と部分の関係から基準量・比較量・割合の関係を捉えたり、数量関係図から計算式を立てて基準量を求めたりできるようにする。

■つまずき解消

- 視覚的に理解した基準量と比較量の関係から「倍」の計算へスムーズに展開させる。
- 基準量1の小数で表される割合と、基準量100の百分率で表される割合の相互の関係を捉えさせる。

center method

1 全体と部分の把握

全体と部分の関係から基準量を何にするのか決め、数量関係を捉える。

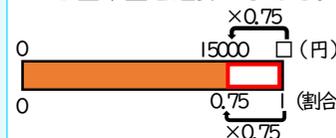


2 「25%引き」とは？

・値段の「25%引き」の意味を考える。  
・「25%」との違いを話し合い、「25%引き」は、代金が値段の25%分安くなることを図を基に視覚的に捉える。

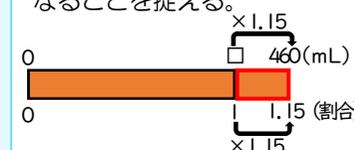
3 (1-0.25)倍の逆算

もとの値段の割合が(1-0.25)倍になることから基準量を逆算で求める。



4 「15%増量」に発展

「15%増量」の意味を考え、基準量が(1+0.15)倍になることを捉える。



問題

プリンターをもとのねだんの25%引きで買うと、代金は15000円でした。もとのねだんは何円ですか。

ねだんの25%引きとは？

もとのねだん□円をもとにする量として割合を1とする。25%は割合0.25と同じだから、0.25にあたる大きさを引いたものが代金15000円となる。

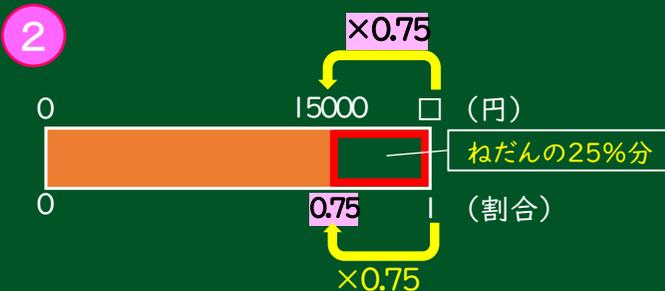


ねだんの25%引きは、代金がねだんの25%分安くなること

めあて

もとの何倍かを考えて、もとにする量を求めよう。

ねだんの25%引きは、もとの何倍になるか考える



代金は、もとのねだんの何倍考えると

$$1 - 0.25 = 0.75$$

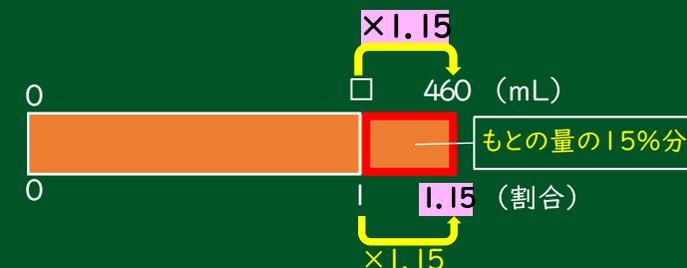
もとのねだんを□円とすると

$$\begin{aligned} \square \times 0.75 &= 15000 \\ \square &= 15000 \div 0.75 \\ \square &= 20000 \end{aligned}$$

答え 20000円

ぜんざいが、これまでよりも15%増量して1本460mL入りで売られています。これまで売られていたぜんざいは、1本何mL入りでしたか。

もとの量の15%増量は、もとの何倍になるか考える



15%増量とは、もとの量の15%分増えるということ。

もとの量の何倍かを考えると、 $1 + 0.15 = 1.15$

もとの量□mLの1.15倍が460mLだから

$$\begin{aligned} \square \times 1.15 &= 460 \\ \square &= 460 \div 1.15 \\ \square &= 400 \end{aligned}$$

答え 400mL

まとめ

もとにする量を1として、もとの量の何倍にあたるかを考えれば、○%引きや○%増量のような問題のもとする量の答えが求められる。